

石狩湾新港地域 立地企業から見た港と地域の魅力

北海道経済の中心である札幌圏に位置する石狩湾新港は、平成6年に国際貿易港として開港して以来、同圏の海の玄関口として機能しています。そして、本港の背後には、開発面積約3,000ヘクタールに及ぶ札幌圏最大の工業流通団地「石狩湾新港地域（以下、新港地域）」が広がっており、港と一体となった北海道日本海側の国際物流拠点が形成されています。

近年、企業集積が着実に進み、特に物流センター等の立地が目覚ましい新港地域ですが、首都圏の企業の方等から、立地企業はどのように港を活用して、地域の特徴をどのようにとらえているのかというご質問をいただきます。本号では、この地域に立地する企業に、港を活用した事業展開や地域の優位性について、お話を伺いました。

まずはじめは、現在、新港地域内に新たな物流センターを建設している「日本トランスシティ株式会社」様です。

石狩湾新港地域とは
開発面積3,000ha
立地企業 約770社
操業企業 約720社
就業人口 約2万人超
(令和7年3月時点)

コンテナヤード(花畔ふ頭)

石狩湾新港地域

小樽方面

札幌方面



新物流センターが令和8年に竣工
日本トランスシティ株式会社

SCM事業部 北海道営業所長
平野 智之氏

①本州と北海道をつなぐ物流拠点としての役割

当社は、倉庫業、港湾運送業、陸上輸送業、国際複合輸送業を中心とした事業を全国で展開しています。近年では、三重県における危険品倉庫や貯蔵施設等を備えた危険品複合センターの新設を決定しているなど、新たな物流ニーズにも対応したサービスを提供しています。

北海道においては、昭和49年に北海道営業所を札幌市内に設立し、その後、港湾貨物の取扱拡大を機に、平成2年に新港地域に移転しました。当営業所では、本州メーカーの電化製品や生活雑貨、食品等を北海道全域に供給する役割を担っています。

②新物流センターで始まる取組み

当社は現在、新港地域内に新たな物流センターを建設中です。このセンターはコンテナヤードから車でわずか1分という位置にあり、コンテナ物流にも対応した高床式の施設となっているほか、定温機能を備えており、シートシャッターやドックシェルター式トラックバースも完備され、品質管理が重要となる商品の保管管理に適していると考えられます。

③石狩湾新港を活かした事業展開と期待

当営業所では、特に輸入貨物の多くを新港地域内の企業へ納品することが多いため、港を活用した効率的な配送を実現しています。また、地域内には物流企業が多く立地しており、保管や配送において連携が取りやすいことにも魅力を感じています。

今後、当営業所では、新たな物流センターを活用し、貨物の取扱量を更に拡大していく予定です。そのため、港湾管理者には定期コンテナ航路の拡充をはじめとする、港湾の利便性向上に引き続き努めていただきたいと思います。

「日本トランスシティ株式会社」様より、新物流センターで計画される取組みや、立地企業の視点での港湾や新港地域の魅力を伺いました。次は、新港地域の分譲初期に立地し、本港を利用して食品製造を行っている「株式会社ホクビー」様です。

新港地域分譲初期より立地、発展する企業
株式会社ホクビー

取締役
本田 幸治氏



①レストランから始まった「メルティークビーフ」

当社は、昭和47年にレストランとして創業しました。当時、牛肉が高価だったため、調達しやすい北海道の乳用牛を美味しく食べることができないか考え、昭和57年に世界初のインジェクションビーフ※「メルティークビーフ」を開発しました。この製品は、赤身肉の旨味をそのままに、適度なサシを入れることで、柔らかくジューシーな食感を実現したもので、開発後も改良を続けた結果、令和5年には、「食品産業技術功労賞商品・技術部門」を受賞しました。

※美味しく食べるために牛脂などを加え、味と食感をより良くした牛肉

②石狩湾新港と新港地域の魅力

国内で流通するメルティークビーフは、その原料をオーストラリア等から輸入し、コンテナヤードから車で5分の距離にある当社工場で加工します。当社としては、世界とつながる港湾が工場の至近にあることで、原料の輸送コストの縮減等が可能で、効率的な生産が実現できていると考えています。また、新港地域内に冷凍冷蔵倉庫が多数立地しているため、ピーク時においては、ストック等の連携ができることも魅力です。

③今後の取組みと石狩湾新港への期待

現在、メルティークビーフは、国内はもとより東南アジアをはじめとする海外27か国で食され、その消費量も増えており、今後もより多くの国内外の方に当社製品のおいしさを知っていただきたいと考えています。そのためには、安定した原料の調達が不可欠であり、定期コンテナ航路がその基盤となります。港湾管理者には、今後も航路の維持と拡充に取り組んでいただきたいと思います。

2社のインタビューを通し、具体的な事例から本港と新港地域が企業活動を支える重要な役割を担っていることが改めて見えてきました。港湾管理者として、今後も北海道経済の発展に寄与していくことができるよう、より利用しやすい港づくりに取り組んで参ります。

港の利用促進に向けて

石狩湾新港説明会を都内で開催

本年2月19日、石狩湾新港管理組合等は、東京都内において石狩湾新港説明会を開催いたしました。当日は、船社、荷主、物流関連企業など330名を超える皆様に来場いただきました。

説明会では、当組合より、石狩湾新港の最新の利用状況をはじめ、現在進められている東地区国際物流ターミナル整備事業の進捗、そして港湾背後に立地が進む再生可能エネルギー発電施設の現況等を紹介しました。

続いて、立地が進む再生可能エネルギー発電施設に関して、エクスセントラルサービス・ジャパン株式会社の金光様から、令和12年末頃の営業運転開始を目指し、石狩湾新港地域に発電出力112メガワットのバイオマス発電所を建設する「石狩湾新港バイオマス発電プロジェクト」の概要を説明していただきました。説明では、石狩湾新港地域を立地場所に選定した理由として、本港にアジア圏や北米からのバイオマス燃料の輸送船が入港可能なこと、石狩湾新港地域が電力需要の大きな札幌圏に位置していることなどを挙げ、この将来を見据えた取組みには、参加者から高い関心が寄せられていました。

本港では、今後もこのように本港の現況や石狩湾新港地域内の取組みを積極的に情報発信し、更なる利用拡大に努めて参りますので、引き続きよろしくお願いいたします。



▲本港の現況を伝え、来場者に利用を呼びかけた



▲金光様による取組み紹介

就任のご挨拶

石狩湾新港管理組合専任副管理者 橋本 雄太

石狩湾新港は平成6年に国際貿易港として開港し、令和6年6月で30周年を迎えたところではありますが、永く貿易の拠点となってきた歴史ある港と比べると、まだまだ歴史の浅い港であると考えています。現在は、利用者の皆様から札幌圏の海の玄関口としての地理的優位性と高い港湾機能を評価していただき、本港の取扱貨物量および外貿コンテナ取扱個数は順調に推移していることから、今後も利用拡大が期待されており、北海道日本海側の物流拠点として更なる成長の可能性があると感じています。

近年、港の背後地域では太陽光発電所やバイオマス発電所が稼働し、また、港湾区域内においては洋上風力発電所が営業運転を開始するなど、再生可能エネルギー発電施設の立地が目覚ましく、本港は将来に向けてカーボンニュートラルの実現に貢献することが期待されています。このほか、これらの再生可能エネルギー発電施設に加え、LNG火力発電所やLNG・石油製品の貯蔵施設も立地しているなど、北海道におけるエネルギー供給拠点としての役割も果たしています。

このように、本港は将来へ向けた話題も多く、今後も北海道経済の一層の活性化に資するよう、利用者のニーズに応えた港湾施設の拡充など、より利用しやすい港づくりを目指して参ります。



平成4年北海道庁に入庁
オホーツク総合振興局副局長（建設管理部担当）、
建設部建設政策局施設保全
防災担当局長を経て、
令和7年4月より現職



石狩湾新港の魅力を伝える、ぶらりしんこうの旅
当組合事務所そばにある憩いの場、「青葉公園」を紹介します。
実はとある有名ロックバンドと縁があります！

今号では、本港と石狩湾新港地域（以下、新港地域）に焦点を当てて紹介してきました。新港地域は、昭和51年に北海道が策定した「石狩湾新港地域土地利用計画」に基づき開発が進められており、この計画では、産業集積に加えて「運動や憩いを目的とした公園の配置」、「既存の防風林の保全」、「住宅地との間に緑地帯を整備」といった自然環境への配慮から、計画面積の約30%が公園・緑地として確保されました。（右グラフ）

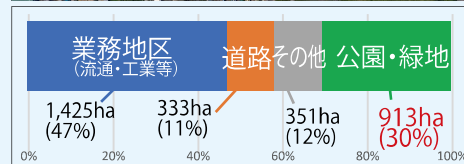
10万人が熱狂した野外ライブGLAY EXPO

当組合事務所からほど近い場所にある「青葉公園」は、平成2年に野球場、テニスコート、陸上競技トラックが整備された運動公園で、周辺企業に勤める方々の健康増進やリフレッシュに利用されています。ちなみに、当組合職員のお昼休みの散歩コースでもあります。

さて、この「青葉公園」。平成13年に北海道出身のロックバンド「GLAY」が、地元を元気づけたいと、この公園と周辺に特設ステージを設け、野外ライブを開催しました。この1日限りのライブには北海道内外から10万人ものファンが来場し、これは道内最大規模の動員数となったとも言われています。ライブは全国的にも大きな注目を集め、開催地である石狩市をはじめ、石狩湾新港や新港地域の名も全国に発信される機会となりました。また、石狩市ではこの歴史的なイベントを記念し、公園内にGLAYメンバーのサイン入りメモリアルモニュメント（左写真）を設置したこともあり、「青葉公園」はファンにとって「聖地」として認識されるようになりました。なお、一般社団法人石狩観光協会では、花壇づくりを通じて、ファンと一緒にモニュメントを守っていく取組み「GLAY FLOWER COMMUNICATION」を平成14年から毎年実施しています。



▲青葉公園に設置されているGLAYメンバーサイン入りメモリアルモニュメント



▲石狩湾新港地域
地区別面積内訳
(出典：石狩湾新港
地域土地利用計画)

本港へお越しの際は、メモリアルモニュメントを探しに「青葉公園」に立ち寄ってみてはいかがでしょうか。緑も多くリフレッシュにも最適です！